

* 編集後記 *

この3月で東北地方太平洋沖地震から早2年が経ちました。復興の兆しも徐々に見え始めていますが、福島第一原発に伴う放射能汚染の対策は、過去に経験のないことから、なかなか進んでいないのが実情です。今月号の技術報文ではナチュラルブランケット工法の適用事例をご紹介いただきました。他にもジオテキスタイルを用いた技術を活かす方法があると思います。ジオテキスタイルを扱う技術者として、復興の一助となれるよう、努力していきたいと思います。

今月号の展望は平井幹事長に、「ジオシンセティックスのこれから」と題して、ご執筆いただきました。その中で「ジオシンセティックス技術のこれから」として、平井幹事長の思いが書かれていますが、ただジオテキスタイルを提案すればよいだけではなく、「何を想定し」、「何のために」、「どこまで強く」を念頭において、ジオシンセティックス技術を提案していくことが重要であるとあらためて思い知らされました。

末筆になりましたが、ご多忙のなかで原稿のご執筆を快諾していただきました方々と、編集にご協力をいただきました方々に心より御礼申し上げます。

本号担当：土橋 和敬・高橋 真一・川島 則子

I G S 日本支部編集委員会(名簿)

委員長	木幡 行宏	室蘭工業大学大学院工学研究科くらし環境系領域社会基盤ユニット
幹事	西村 淳	三井化学産資(株) 環境資材事業部
幹事	梶尾 孝之	太陽工業(株)国土環境エンジニアリングカンパニー 事業開発室
委員	内村 太郎	東京大学大学院工学系研究科
委員	荻迫 栄治	清水建設(株)技術研究所
委員	小浪 岳治	岡三リビック(株)技術部
委員	高橋 真一	(株)大林組技術研究所
委員	川島 則子	(株)クラレ 原料資材第二部
委員	原田 尚幸	(株)錢高組技術本部技術研究所
委員	平川 大貴	防衛大学校システム工学群建設環境工学科
委員	土橋 和敬	前田工織(株)水環境保全推進部
委員	江崎 孝二	ユニチカ(株)不織布技術部

I G S 日本支部会員現在数 (2013年3月末現在)

個人会員 207名 学生会員 12名 特別会員 17社 合計 236名

平成25年3月31日

ジオシンセティックス技術情報 (国際ジオシンセティックス学会日本支部・会誌) Vol.29, No.1

発行：国際ジオシンセティックス学会日本支部

〒112-0011 東京都文京区千石4丁目38番2号 (公益社団法人 地盤工学会内)

事務連絡：〒338-8570 埼玉県さいたま市桜区下大久保255

埼玉大学地圏科学研究センター 桑野研究室内

TEL 048-858-9239 FAX 048-858-9239 E-mail iju@jcigs.org